

飢肥の歴史深掘り

振徳高生 地域学習で町歩き

日南市の日南振徳高（奥村 生43人は5日、同市飢肥で昌美校長、578人）の2年「町歩き学習」を行った。歴史的な建築物や小村寿太郎についての説明を聞いた



振徳堂で飢肥の歴史について学ぶ日南振徳高の生徒

史的な建築物や小村寿太郎についての説明を聞いた。飢肥の天ぷらを食べたりして郷土の歴史や文化への理解を深めた。同校2年生は本年度、地域学習として「歴史・文化」「創客創人」「郷土の食」の中からそれぞれ選んだテーマについて学んでいる。このうち「歴史・文化」「創客創人」グループの23人は同日、田ノ上八幡神社や振徳堂、国際交流センター小村記念館を訪問した。飢肥藩の藩校として多くの偉人を輩出した振徳堂では、市生涯学習課の岡本武憲さんが飢肥の歴史を紹介した。岡本さんは飢肥の町並みについて、武家屋敷の区割りが江戸時代とほとんど変わっていないことや石垣がたくさん残っていることなどを説明。「100年以上前の建物が当たり前のように残っていることは幸せなこと」と強調した。「郷土の食」グループの20人は、小村記念館を訪れたほか、厚焼きたまごや飢肥の天ぷらの販売店で試食するなどして歴史や食について学んだ。商業科の川崎夏希さん(16)は「住んでいる地域についてもっと詳しく知ることが、観光客にも思いを持って案内できる」と話していた。

生徒たちは町歩きで学んだ内容を基に、26日のクルーズ船寄港に合わせ、観光客にアンケートを採ったり乗務員と交流したりする。

(外園圭一郎)